

建災防方式 「新ヒヤリハット報告」 のすすめ



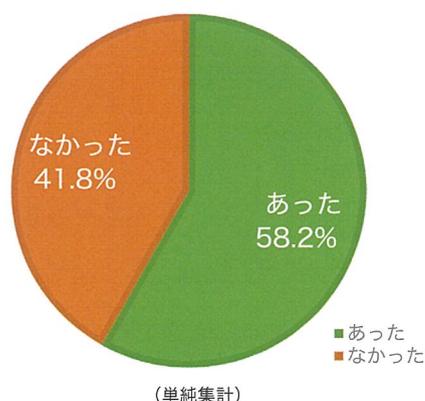
建設業における労働災害は、長期的には減少していますが、近年はその減少率が鈍化しています。

建災防の調査では、「過去1年間において労働災害につながるようなひやりとしたり、はっとしたりした体験（ヒヤリハット体験）」があったと回答した建設工事従事者は約6割となり、高ストレスや不眠の方々のヒヤリハット体験リスクは、そうでない人より1.2～2.0倍高いことが明らかになりました。

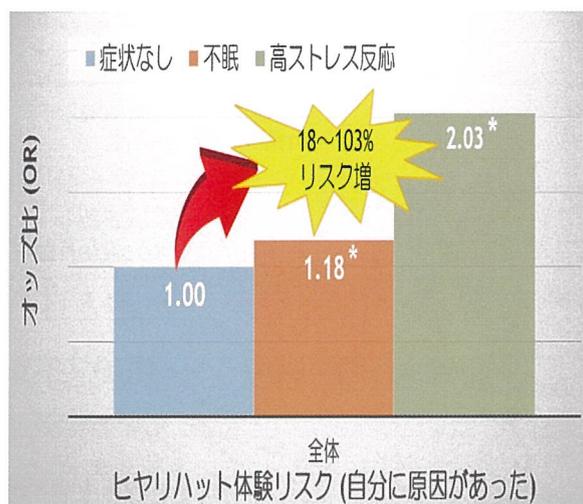
ヒヤリハット体験とメンタルヘルス不調

(問)

あなたは、過去1年間において、労働災害につながるような「ひやり」としたり、「はっと」したりした体験(ヒヤリ・ハット体験)がありましたか。



ヒヤリハット体験との関連(N=14,266)



Note. * p < 0.05. オッズ比は、性別、年代、経験年数、職種を調整済み。

高ストレス反応、不眠のヒヤリハット体験リスク 1.2～2.0倍

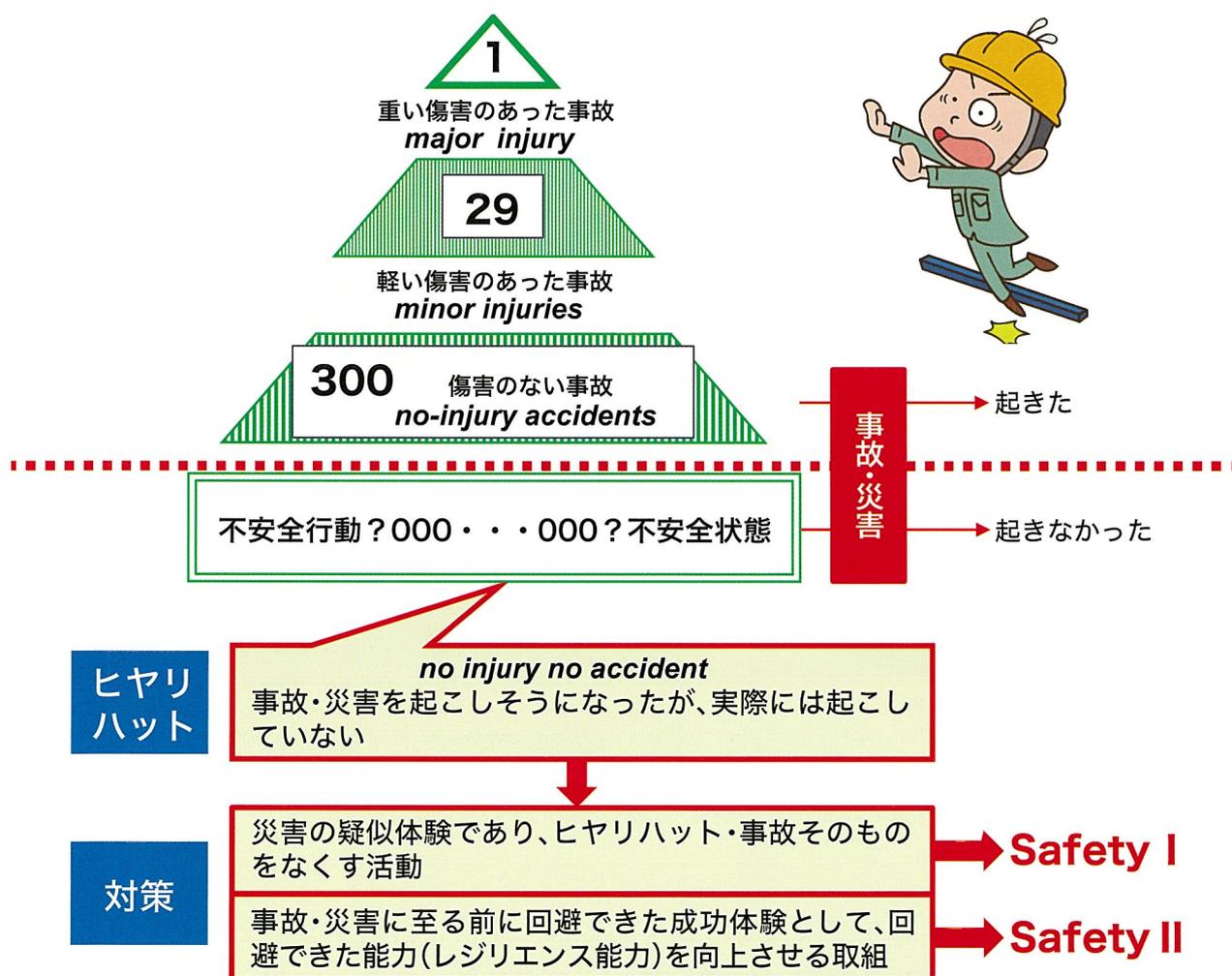
出典:「平成30年度建設業におけるメンタルヘルス対策のあり方に関する検討委員会報告書」2019

こうした調査の結果等を踏まえて、建災防では、現状を打破する新たな災害防止のツールとして、人が関わる要因(作業負荷、心身の状態、コミュニケーション、レジリエンス能力等)に着目した建災防方式「新ヒヤリハット報告」を開発しました。

ヒヤリハットといえば、有名な「ハインリッヒの法則」に則って、1件の死亡・重傷災害の背後には29件の軽傷災害と、300件のヒヤリハットがあり、1件の重大な死亡事故を防ぐためには300件のヒヤリハットをなくすことが必要であるという説明がなされることが多くあります。

しかしながら、ハインリッヒの原著に立ち返ってみると、1件の重い傷害のあった事故、29件の軽い傷害のあった事故、300件の障害のない事故^(注)はいずれも「事故が起きた」結果の傷害の有無及び程度を意味しており、300件は単なるヒヤリハットではありません。また、ハインリッヒは「傷害を伴うにせよ伴わないにせよ、すべての事故の下におそらく数千に達すると思われる不安全行動と不安全状態が存在する」と指摘しています。

そこで、改めてヒヤリハットは、不安全行動や不安全状態のある状況のなかで事故を起こしそうになったが実際には事故に至らなかった事象、いわば「no injury no accident」と位置づけたうえで、ヒヤリハットが事故や災害に至らなかった理由、事故や災害を回避できた能力、その能力を育成するのに役立つ日頃の活動、さらにはストレスなど職場環境がどのような影響を与えているか、を明らかにすることを目的として開発されたのが、建災防方式「新ヒヤリハット報告」です。



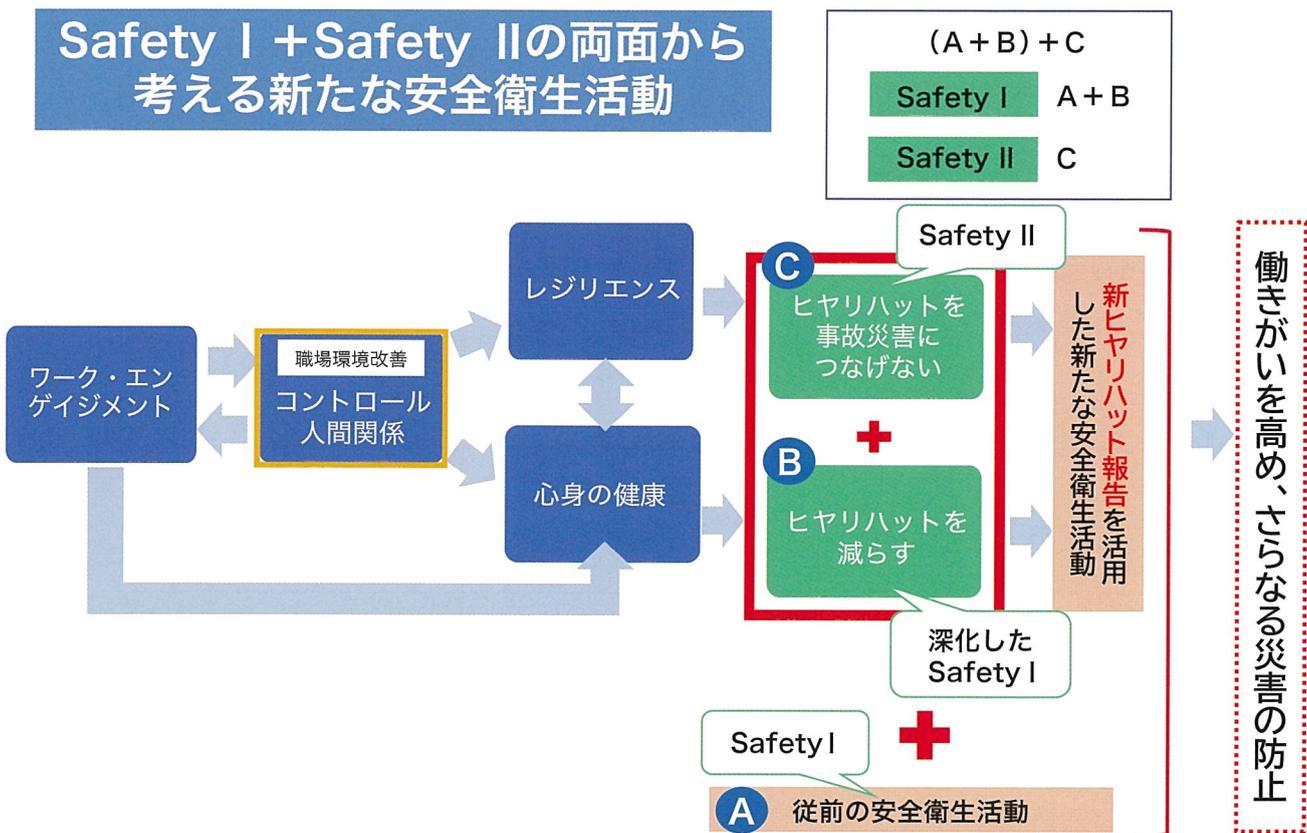
(注)日本語訳では、「災害」となっていますが、「事故」とした方が適切と思われるので、ここでは「事故」と表記します。「災害」については、ILOの定義により人の傷害を伴う出来事であるとして、「事故」と使い分けています。



建災防方式「新ヒヤリハット報告」は、実際の災害事例から学んだ再発防止対策を中心としたこれまでの安全衛生対策 (A) に、災害の背景にあるヒューマンファクターへの対応 (B) と、日々刻々と変化する建設工事現場の作業環境に対応するレジリエンス能力の向上 (C) というふたつの新たな視点を盛り込んで構成されています。

これは、これまでの安全衛生活動 (Safety I) に加え、メンタルヘルス等ヒューマンファクターの背後要因に関する対策によりヒヤリハット及び事故・災害そのものを減少させる「深化した Safety I」の取組と、レジリエンス能力を向上させヒヤリハットを事故や災害につなげない「Safety II」の取組を併せて行うことを志向しています。さらには働く人々の心身が健康であるようメンタルヘルス対策の取組や働きがいを表すワーク・エンゲイジメントの向上につながる取組も併せて求めるものです。

新ヒヤリハット報告による新たな視点からの労働災害防止対策について



建災防方式「新ヒヤリハット報告」のポイント

- ① 人がミスをする背景には人間の行動特性（ヒューマンファクター）が関係している。
- ② ヒヤリハットは、「災害になる前の脱出事例」であり「成功事例」でもある。

新ヒヤリハット報告の構成【表面】(記入例)

記入例

新ヒヤリハット報告

ヒヤリハットは災害の疑似体験というだけでなく、災害に至る前にリカバリーした貴重な成功体験の一面もあります。あなたが過去1年間に体験したヒヤリハットをこれからの労働災害防止活動に役立てるため、ありのままを記入してください。 記入日: 20XX年 11月 XX日

職種: 石工 経験年数: 25年
年齢: 50代

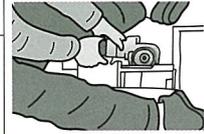
記入日、職種、経験年数、年齢を記載します。

いつ()月頃 どこで (この現場, 他の現場) どのような場所で()

どのような体験か(当てはまるものに○してください)

1 墜落しそうになった	5 ものが倒れかかってきた	9 やけどしそうになった
2 転倒しそうになった	6 自分からぶつかりそうになった	10 感電しそうになった
3 機械等に激突されそうになった	7 はさまれそうになった	11 交通事故になりそうだった
4 ものが落下してきた	8 切られそうになった	12 その他()

体験の状況図 (図は別紙記載でも可)



「ヒヤリハット」の内容 当てはまるものに○をします。

どのような作業で? 敷石を敷設作業中、 ヒヤリハットの具体的な内容を記載します。

何をしようとしていた時? 厚い石材をベビーサンダーで切断する加工を行っていたところ、

どうなったか? サンダーがはねて頭に当たりそうになった

イラストが描ければ記載します。

発生原因(考えられるもの全てに○してください)

1 設備・機械に問題があった	5 連絡・連携ミスがあった
2 工具・保護具に問題があった	6 確認が不足していた
3 現場の作業環境(騒音、照明、温度、換気など)に問題があった	7 よく考えずに行動してしまった
4 作業方法に問題があった	8 考え事をしていた
	9 よく見えなかった



「ヒヤリハット」を防ぐ対策(このヒヤリハットを防ぐために、どのような対策が必要だと考えますか)

- ・ ルール通りに現場では石材加工をしない。
- ・ 厚みのある石材をベビーサンダーで加工しない。
- ・ 事前に材料の確認を行う。

このヒヤリハットを防ぐために必要な対策を記載します。

以下、当てはまる番号に1つ○してください(各項目で選択肢が異なっているので、よく読んで回答してください)

<背後要因>	そうだ	まあそうだ	ややちがう	ちがう
非常にたくさんの仕事をしなければならなかった	1	2	3	4
時間内に仕事が処理しきれなかった	1	2	3	4
一生懸命働かなければならなかった	1	2	3	4

<あなたの状態>	ほとんどなかった	ときどきあった	しばしばあった	ほとんどいつもあった
ひどく疲れた	1	2	3	4
へとへとだ	1	2	3	4
だるい	1	2	3	4
気がはりつめている	1	2	3	4
不安だ	1	2	3	4
落ち着かない	1	2	3	4
ゆううつだ	1	2	3	4
何をするのも面倒だ	1	2	3	4
気分が晴れない	1	2	3	4
食欲がない	1	2	3	4
よく眠れない	1	2	3	4

裏面にも記入してください



建災防方式「新ヒヤリハット報告」は、表裏両面で構成しています。

※表面では、属性、「ヒヤリハット」したこと(時期・場所、体験の内容、ヒヤリハットの内容、状況図、発生原因)、災害になっていた場合の傷害のレベル、防止対策、背後要因、心身の状態に関する項目を設定しています。



新ヒヤリハット報告の構成【裏面】(記入例)

＜あなたの仕事について＞	あてはまるものに○をします。			
	そうだ	まあそうだ	ややちがう	ちがう
自分のペースで仕事ができた	1	②	3	4
自分で仕事の順番・やり方を決めることができた	1	②	3	4
職場の仕事の方針に自分の意見を反映できた	1	②	3	4

＜あなたの周りの方々について＞	非常に	かなり	多少	全くない
次の人たちはどのくらい気軽に話ができますか				
上司	1	②	3	4
同僚	1	②	3	4
あなたが困った時、次の人たちはどのくらい頼りになりますか				
上司	1	2	③	4
同僚	1	2	③	4
あなたの個人的な問題を相談したら、次の人たちはどのくらい聞いてくれますか				
上司	1	2	③	4
同僚	1	2	③	4

＜あなたの仕事について＞	あてはまるものに○をします。			
	ほとんどなかった	ときどきあった	しばしばあった	ほとんどいつもあった
職場では、気持ちのはつらつとしている	1	2	3	④
自分の仕事に誇りを感じる	1	2	3	④
仕事に集中しているとき、幸せだと感じる	1	②	3	4

＜「ヒヤリハット」が事故や災害に至らなかった理由＞	全くなし	あまりなし	多少あり	非常にある
知識や経験を活かすことができた	1	2	3	④
体力があった（運動神経がよかった）	1	2	③	4
状況がいつもと違っていたため予測できた	1	2	3	④
何かが起こりそうな予感がした	1	2	3	④
周りに注意を払っていた	1	2	3	④
とっさの機転が利いた（知恵が働いた）	1	2	3	④
リーダーや仲間から声を掛けられた（とっさに注意された）	①	2	3	4
安全帯などの保護具に助けられた	1	2	3	④
警告ブザーなどの機械設備に助けられた	①	2	3	4
偶然に助けられた	1	2	③	4

あなたの「ヒヤリハット」が事故・災害にならずに直前で回避できたのは、なぜですか

＜例＞厚い石材をベビーサンダーで切断加工中、サンダーがはねて頭に当たりそうになったが、「サンダーははねて危ない」と親方から教えられていたこともあり、体を斜めに構えていたため、ケガをせずに済んだ。

回避できた理由を具体的に記載します。

「ヒヤリハット」が事故や災害にならず直前で回避するのに役立ったと思われる活動についてうかがいます (当てはまる番号に1つ○)

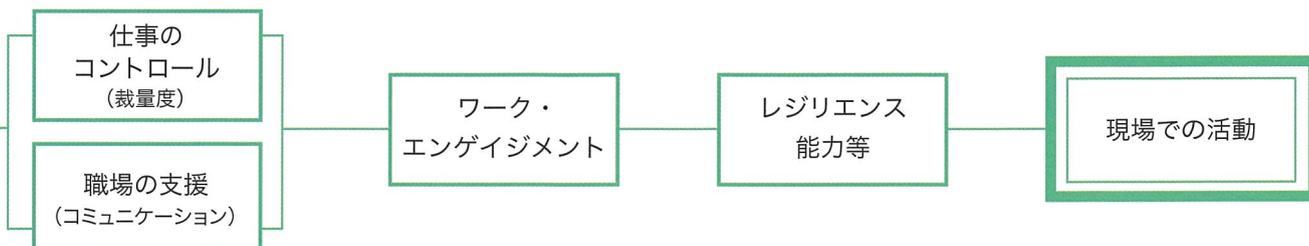
1 過去のヒヤリハット体験	11 危険体感教育	21 リーダーや仲間とのコミュニケーション
2 同僚や先輩の話	12 危険箇所の見える化	22 懇親会・レクリエーション
3 安全衛生教育での講話	13 安全標識の設置	23 体操
4 現場での朝礼、夕礼	14 4S（整理・整頓・清掃・清潔）	24 安全表彰
5 現地ミーティング	15 避難訓練	25 バランスのよい食事
⑥ 日々のKY活動	16 作業状況の監視	26 悩みを相談
7 危険予知訓練	17 周囲の状況把握	27 よい睡眠
8 リスクアセスメント	18 人への目配り	28 くつろげる休憩時間と場所
9 災害事例の周知	19 機械設備の点検	
10 現場パトロール	20 作業手順書の周知	

あてはまるものに一つだけ○をします。

- ・この報告で回答された内容は、現場の災害防止のために役立てられます。
- ・この情報は、個人が特定されることのないよう厳正に取り扱われ、回答した個人の不利益につながることはありません。
- ・記入方法がわからない場合は、ヒヤリハットとりまとめ担当者まで連絡ください。
- ・後日、この報告に関するヒアリングに協力いただける方は、所属と連絡先をお知らせください。

所属・氏名

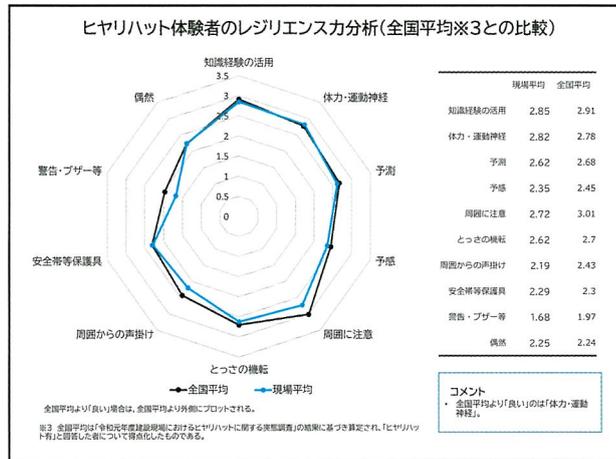
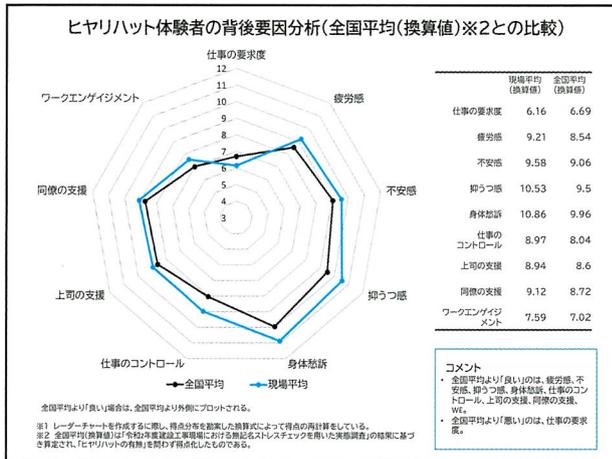
連絡先



※裏面では、仕事のコントロール(裁量度)、職場の支援(コミュニケーション)、ワーク・エンゲイジメント(働きがい)、レジリエンス能力(ヒヤリハット)が事故や災害に至らなかった理由、事故や災害に至らず直前で回避できた理由、事故や災害に至らず直前で回避するのに役立った活動)に関する項目を設定しています。

建災防方式「新ヒヤリハット報告」の特徴

① 災害の背景にあるヒューマンファクターとレジリエンス能力等を集団分析し、全国平均（標準値）と現場平均（支店・全社平均も可能）を比較することで、対象建設工事現場のヒヤリハット体験者の特性と状況を把握することができます。



② 集団分析した結果を踏まえて、災害防止に役立つレジリエンス能力等の向上に繋がる安全衛生活動の具体的な取組を簡単に選ぶことができ、活動の選択と集中が可能となり、その意義付けが明確になります。

全国平均点	2.68	2.45	3.01	2.78	2.7	2.91	2.43	2.3	1.97	2.24
現場平均点	2.62	2.35	2.72	2.82	2.62	2.85	2.19	2.29	1.68	2.25
差	△0.06	△0.10	△0.29	0.04	△0.08	△0.06	△0.24	△0.01	△0.29	0.01
強化が必要な順位	6	4	2	10	5	6	3	8	1	9

No.	レジリエンスと安全衛生活動	予測		注視	対処	学習	外的要因				偶然	0.7以上 ○	0.8以上 ◎	1.0以上 ☆	○	◎	☆	得点小計	活動選択の優先順位
		予測	予感	周囲に注意	体力・運動神経	とっさの機転	知識経験の活用	周囲からの声掛け	安全帯等保護具	警告・ブザー									
No.1	過去のヒヤリハット体験					○						0	0	0	0	0	0	0	26
No.2	同僚・先輩の話					○	◎	○				0	1	0	0	2	0	2	15
No.3	安全衛生教育	○		○			◎	◎	○		2	1	0	2	2	0	4	7	
No.4	朝礼・夕礼			◎			◎	◎	○		1	2	0	1	4	0	5	3	
No.5	現地ミーティング			◎		○	○				1	1	0	1	2	0	3	12	
No.6	日々のKY活動	◎		☆		◎	◎	○			0	1	1	0	2	3	5	3	
No.7	KYT	○		◎	○	○	◎	◎	○		2	1	0	2	2	0	4	7	
No.8	リスクアセスメント	◎		◎				◎			0	1	0	0	2	0	2	15	
No.9	災害事例周知	◎		☆		◎	◎	◎	○		1	1	1	1	2	3	6	1	
No.10	現場パトロール								◎		0	0	0	0	0	0	0	26	
No.11	危険体感教育								○	○	1	0	0	1	0	0	1	21	
No.12	危険箇所見える化	○		◎					○		1	1	0	1	2	0	3	12	
No.13	安全標識設置	○		◎	◎		◎	◎	◎		0	3	0	0	6	0	6	1	
No.14	4S	○		◎	◎		◎	◎	○		0	2	0	0	4	0	4	7	
No.15	避難訓練								◎	◎	0	1	0	0	2	0	2	15	
No.16	作業状況の監視			○							1	0	0	1	0	0	1	21	
No.17	周囲の状況把握	☆		☆	◎	☆	☆	○			1	0	1	1	0	3	4	7	
No.18	人への目配り	◎	◎	☆	◎	☆	☆	◎	○		0	1	1	0	2	3	5	3	
No.19	機械設備点検								◎	◎	1	1	0	1	2	0	3	12	
No.20	作業手順書周知	◎		◎			○	○	◎	○	2	1	0	2	2	0	4	7	
No.21	コミュニケーション	◎		☆	◎	◎	◎	◎	◎		0	1	1	0	2	3	5	3	
No.22	懇親会・レク							○	○	○	2	0	0	2	0	0	2	15	
No.23	体操				○		○	○	○	○	2	0	0	2	0	0	2	15	
No.24	安全表彰								◎	◎	0	1	0	0	2	0	2	15	
No.25	バランス食事										0	0	0	0	0	0	0	26	
No.26	悩み相談					○				○	1	0	0	1	0	0	1	21	
No.27	睡眠									○	1	0	0	1	0	0	1	21	
No.28	休憩時間・場所			○	○						1	0	0	1	0	0	1	21	



3

「新ヒヤリハット報告」の結果に基づいて、体験者からのヒアリングを実施することで、これまでの事故報告では得られなかった、事故や災害に至る前に回避できたレジリエンス能力の内容や背後要因についても明らかとなる事例集を作ることができます。

作業内容	敷石を敷設作業中、厚い石材をベビーサンダーで切断する加工を行っていたところ、サンダーがはねて頭に当たりそうになった				
型	切られそうになった		災害想定レベル	6	
発生原因	・決められたルールを守らなかった ・道具の選定に問題があった		背後要因	・工期が迫っていた ・疲れていた	
対策	・ルールどおりに現場では石材加工をしない ・厚みのある石材をベビーサンダーで加工しない ・事前に材料の確認を行う		・工期や人員配置を適正化する ・「健康 KY と無記名ストレスチェック」を実施する		
グッドリカバリー	・親方からサンダーを使う時は斜めに構えろと教えられていて、それを守った ・「何かあるかもしれない」と予測して注意しながら作業していた				
レジリエンス能力	予測	注視	対処	学習	
	サンダーが跳ねるかもと予測	サンダーの状況を注視	跳ねたサンダーが当たらないように斜めに構えて対処	親方の教えや他者の事例から学習	
得点	仕事の要求度 (量的負担)	仕事の裁量 (コントロール)	上司の支援	同僚の支援	ワーク・エンゲイジメント
	5.0点	9.0点	7.0点	7.0点	10.0点

作業内容	長尺物の資材の搬入作業中、荷下ろしした後、資材を移動しようとして、肩に担いで旋回しようとしたところ、資材が他者の頭にぶつかりそうになった				
型	転落しそうになった、ぶつかりそうになった		災害想定レベル	5	
発生原因	1 連絡・連携ミス 2 作業方法確認不足よく考えず行動		背後要因	・声掛けが徹底されていなかった ・物が整理されていなかった	
対策	・若手の教育、コミュニケーションをよくとる ・自分が今、何をしているか、声掛けをして周りに伝える		・他職種との連絡・連携を行う ・4Sをしっかりとやる		
グッドリカバリー	・長尺物を扱う際は「何かあるかもしれない」と予想できた				
レジリエンス能力	予測	注視	対処	学習	
	長尺物の取扱いにはリスクがあると予測	他者の動きを見ていた	とっさに旋回を止める	経験上、よくある話であり、親方から話を聞いていた	
得点	仕事の要求度 (量的負担)	仕事の裁量 (コントロール)	上司の支援	同僚の支援	ワーク・エンゲイジメント
	6.0点	9.0点	9.0点	9.0点	8.0点

4

ヒヤリハット報告が提出された後、次頁のヒアリングシートに基づいて10分程度のヒアリングを行うことができれば、より詳しいヒヤリハットの背後要因や事故を回避できたレジリエンス能力、さらには、作業員の方々が五感をもって感じ取った生の安全衛生情報（リスク等）について知ることができます。

なお、ヒアリングに際しては、執拗に原因を探ったり責任追及するような態度は厳に慎み、相手に共感を示して、背後要因やリカバリーできた理由を「教えてもらう」姿勢で臨むことが大切です。

ヒアリングシート

年 月 日

氏名 _____

No.1	あなたが過去1年間にヒヤリハットした出来事を教えてください。 -----
No.2	あなたがヒヤリハットした原因は何ですか。 -----
No.3	このヒヤリハットを防ぐために必要な対策は何ですか。 -----
No.4	ヒヤリハットした時の心身の状態はどうでしたか。 -----
No.5	あなたのヒヤリハット体験が事故・災害に至らなかった理由は何ですか。 ①知識・経験 ②体力 ③予測 ④予感 ⑤注意 ⑥機転 ⑦声掛け ⑧保護具 ⑨機械設備 ⑩偶然 -----
No.6	あなたのヒヤリハット体験が事故・災害にならず直前で回避するのに役立つと思われる現場での活動は何ですか。 -----
No.7	あなたのヒヤリハット体験を踏まえて、現場でどのような活動をしたら災害防止に繋がると考えられますか。 -----
No.8	ヒヤリハットが起きやすい「危ない」と考えられる現場には、どのような特徴があると考えられますか。 -----
No.9	ヒヤリハットの背景に、仕事のストレス、人的なサポート、働きがいは関係していますか。 -----

現場作業員の方々がヒヤリハット体験を通じて五感をもって感じ取った生の安全衛生情報を、ぜひ有効に活用して、災害防止に役立てましょう。

※建災防方式「新ヒヤリハット報告」に関するお問い合わせは下記まで

【電 話】 03-3453-0464
【担 当】 建設業労働災害防止協会 技術管理部 計画課